

FORUM

レポートの紹介

**【組合活動の指標アップデート】
組合員に届く活動指標をどのようにアップデートするか？**

Point

1

イベント内容の要約

これまで、組合活動の成果や進捗度合いを測るために、「会社や組合に対する組合員の満足度」「組合活動への関与」「働きがい」「エンゲージメント」など、さまざまな指標が用いられてきました。VUCA時代の到来、コロナ禍など、組合や組合員を取り巻く環境が大きく変化する中では、組合活動の領域も「個の成長支援」「職場レベルでの経営対策」「組合員ひとりひとりの幸せの実現」など、より個別化・多様化した目的にシフトしてきている組織が多いのではないのでしょうか。組合として目指すゴールが「集団から個別」へと変わっていく中において、その成果を図る指標はどのようなものであると良いのでしょうか。今回のイベントでは、これからの組合活動を測るための指標を検討するためのアイデアをj.unionより提示し、参加いただいた組合の皆さんとともに「良い組合活動とはどのような活動なのか（組合活動の本質とは？）」「今後の活動成果を図っていくための指標としてどのようなものが必要なのか」について議論いただきました。

Point

2

今回のイベント企画の背景や目的は？

組合活動の目的、目指す状態が従来の「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図る」ことを主としたものから、それ以外の領域を含む「組合員一人ひとりの幸せ」「社会や組織の発展」などに変化している中、その活動を測る指標も目的や状況にあわせて変化させる必要があるのではないかと。本イベントはこうした問題意識を背景にうまれた企画です。多くの組織で現在採用されている組合活動の評価指標には「会社・組合への満足度」や「働きがい」「エンゲージメント」などの項目がありますが、目的と手段が入れ替わってしまい、指標自体が目的化してしまっているということはないのでしょうか？私たちがこれから目指す活動を実行し、「組合員の幸せ」「社会の幸せ」を実現するための指標として十分なものなのでしょうか？こうした問いについて、組合役員の皆様とともに議論を重ねることで、これからの組合活動を測るための指標をつくりあげていくための場です。今回のフォーラムだけで完結するのではなく、同様の課題意識や関心を持つ組合様と一緒にこれからの活動指標をつくるための検討を重ね、未来の組合活動のための共通指標づくりを行うことを目的としています。



Point

3

開催してみて参加者の反応や、意見、創発の内容

多くの組織がビジョンや中長期的な活動方針を軸に活動される中で、「現在の自組織での活動指標」として定量的な意識調査・アンケートを実施している組織、あえて定量的な調査は実施せずにヒアリングなどの組合員の声をもとに活動を検討している組織と、それぞれの方法で活動を評価されていました。一方で、「年間活動と指標にミスマッチが生じている」「明確な指標がなく悩んでいる」などの声も聞かれました。J.unionでは、これからの組合活動の目的を「組合員の精神的な豊かさ（=幸せ）」と捉え、それを支える3つの価値として「変化対応力」「自己の存在価値を感じられること」「自身にとって何が大切か認識できていること」があると考え、さらにそれぞれを「それぞれの行動を促す『挑戦』軸」と「行動を支える『安心』軸」の2つに分類し、活動評価指標案を提示しました。これらの指標案をもとに、参加者同士でこれからの指標としてどのようなものが適切かを議論いただきました。グループワークの中では、「指標を設けることそのものの意味」や「活動の目的と実際の行動を繋げるうえで指標をどのように活用すべきか」「あえて組合ならではの指標をもち、会社と差別化してはどうか」などの議論が交わされました。



Point

4

アップデートしていくためには どんなことが必要？

今回のワークショップを通じて出された意見を俯瞰してみると、これからの組合活動にあわせて指標をアップデートしていくためには、以下について議論を深めていくことが重要になるといえます。ひとつは、「そもそも指標は必要であるかどうか」。指標を示しすぎると環境変化に対して硬直的になってしまい、指標が目的化してしまう。一方で示さなければ活動の達成度があいまいになってしまう。どちらの状況にも陥らせず、活動を促進するための有効材料としていくためには、まず指標自体の意味、あり方を捉えなおし、どのように活用していくかのイメージを持ったうえで検討することが第一歩となるのではないのでしょうか。ふたつめは「組合員の幸せ」とは何なのか、ということです。「会社や組合に携わることでそれぞれの人生がより幸せなものになっているか、という観点が指標を考えるうえでのヒントになるのでは」という意見が議論の中でありました。組合活動が、多様化する時代における「組合員の幸せ」をどのように定義するかによっても指標のあり方は変わるでしょう。こうした議論を、組合役員の皆さんと深めながら、ともに活動を推進していくための指標づくりの場を持ち続けたいと思います。